

2

環境学習のすすめ方

環境学習の重要性については、以前に比べかなり認識されるようになりました。しかし、実際には、環境学習の具体的なすすめ方について、これといった確立された手法があるわけではありません。そこで、ここでは市町村や各種団体で環境学習の事業の企画や普及啓発を担当する人や環境学習をする指導者が、実際にどのような考え方のもとに、どのような手順で、企画・実施していけばいいのか、その具体的なすすめ方について示します。

1 環境学習プログラムの考え方は、どのようにするのですか。

対象者に見合った多様な方法を考える。

環境学習の対象者となる人は、発達段階、環境への関心度、年齢、ニーズも多様ですし、置かれている立場もさまざまです。ですから、環境学習を効果的に行おうとすれば、それぞれの対象者に見合った多様な方法を考えていく必要があります。

目的や条件により効果的に展開する。

主催者側としては、環境学習を行う目的はさまざまですし、制約条件のある場合もあります。例えば、環境問題に関心をもってもらう場合と、地域のリーダー的な人材育成では、方法や内容は自ずから異なったものになります。また、継続的に実施できる場合と一日程度で実施する場合もあります。このような異なった条件の中で、より効果的に目的を持って環境学習の展開をする必要があります。

全体の流れを組み立て、プログラムをつくる。

以上のように、目的や対象者や与えられた条件によって、学習活動の内容を考え、全体の流れを組み立てて行く必要があります。このとき、個々の目標やねらいをもつ学習活動の組み合わせに注意をし、学習者の意識や行動の変化の「流れ」や「まとめり」をもつ学習プロセスに配慮したプログラムとすることが大切です。

2 環境学習の具体的なすすめ方は、どのようにするのですか。

環境学習を企画し実施する場合、講義型と実習・体験型がありますが、ここでは次のような点に特徴がある実習・体験型について示します。

- ・酸性雨調査やパックテストなど主に技術の習得を目的としたもの、自然観察や街並みウォッチングなど主に自然体験・生活体験を通じて環境への理解を深めることを目的としたもので、学習者自らが活動する参加型の方法です。
- ・楽しく学習できるというだけでなく、学習者の自発性・主体性を引き出す優れた手法です。
- ・学習自体が楽しく参加者の評価も得やすいことから、ともすると安易に実施されがちですが、こうした実習や体験も、知識に裏付けられたものでなければなりませんので、目的や目標を明確にした上で適切に実施するようにしましょう。
- ・単発で実施されがちですが、できれば、年間の全体計画の中で効果的に実施するようにしましょう。

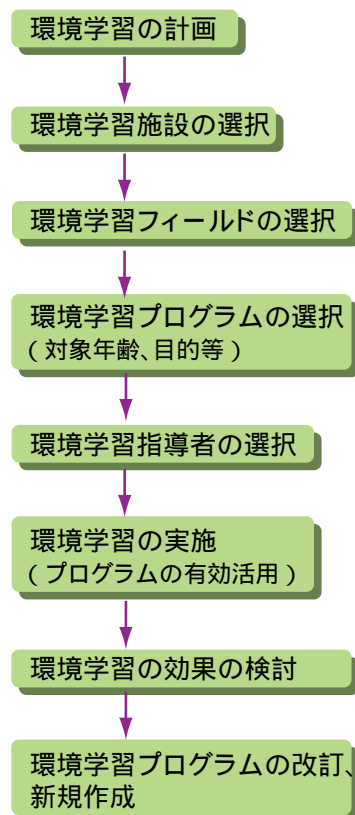
3 環境学習のすすめかたは、具体的にはどのようにするのですか。

環境学習の実施は、図のようなフロー図に従ってすすめるとよいでしょう。

(図には具体的に事例がありますので参考にしてください。)

- (1)環境学習の計画をつくる。(実施場所、日時、対象者、目的、内容を定める。)
- (2)学習施設・フィールドを選択する。(図の 、)
- (3)学習プログラムを選択する。(図の)
*対象者の年齢、目的に注意すること。
- (4)学習指導者の選択をする。(図の)
- (5)環境学習を実施する。(図の)
*この「環境学習プログラム」では、参加者にワークシートの作成をさせるようにしてあります。
- (6)環境学習の効果の検討をする。(図の)
*この環境学習プログラムによる環境学習の効果等は、県庁県民生活課あてご連絡ください。(今後のプログラム作成及び改訂の参考とします。)

環境学習のすすめかた



(実施例)

小学校5年生を対象に、「町のごみ」をテーマにリサイクルの大切さを教えたい

リサイクルプラザを選択

校区内
プログラムの選択

プログラム-2「身近なまち」編
2 タウンウォッチング
6 ごみウォッチング
プログラム-5「暮らし」編
4 ごみの減量化とリサイクル

市町村職員

ワークシートの作成

指導者連絡会議等での検討

3

環境学習プログラムの対象年齢と学習のねらい

学習者の発達段階を、幼少期、少年期、青年期、成人期、高齢期に分けると、環境学習の内容、分野等は、個人の発達段階に応じた「関心」「理解」「行動」へとつながる学習プログラムが必要です。

例えば、幼少期においては、人や自然とのふれあいを通じて環境への関心、守り育む心、豊かな感性を養うことが重要です。

このような対象年齢と環境学習のねらいを次の表に示します。

環境学習プログラムの対象年齢と学習のねらい

幼少期 (保育所、幼稚園、小学生低学年)	体験学習による自然とのふれあい、豊かな感性の醸成
少年期 (小学生高学年、中学生)	環境を守り、育む心の醸成、人と環境の関わりの認識、実践活動への参加
青年期 (高校生、大学生)	人と環境の関わりの認識、解決能力の醸成、責任ある行動力の養成
成人期	人と環境の関わりの認識、地域における実践活動への参加、青少年に対する指導
高齢期	地域における実践活動への参加、青少年に対する指導